

レファレンス協同データベース事業 令和 7 年度事業報告

目次

1. 活動報告	2
(1) 事務局の活動（時系列）	2
(2) 事務局の活動（その他）	2
(3) 企画協力員による活動.....	3
(4) 参加館による活動.....	4
(5) サポーターによる活動.....	9
2. 統計	11
(1) 参加館数（令和 8 年 3 月末現在）	11
(2) データ登録件数（令和 8 年 3 月末現在）	12
(3) データへのアクセス件数（令和 8 年 3 月末現在）	14
(4) YAU（Yearly Active Users）数の推移	15
(5) 令和 7 年度御礼状.....	15
(6) 令和 7 年度企画協力員賞.....	15

1. 活動報告

(1) 事務局の活動（時系列）

日程	内容
令和 7 年	
7 月 28 日	令和 7 年度レファレンス協同データベース事業企画協力員会議（第 1 回）
9 月 1 日	図書館情報学実習生に対し、業務説明と演習を実施
10 月 16 日	第 21 回レファレンス協同データベース事業担当者研修会
10 月 22 日～ 24 日	第 27 回図書館総合展にて広報活動（ミニプレゼンテーション、パンフレット配布等）
11 月 7 日	第 21 回レファレンス協同データベース事業担当者研修会
12 月 3 日	研修講師派遣：レファレンス協同データベースの利活用（主催：新潟市立中央図書館）
12 月 5 日	令和 7 年度レファレンス協同データベース事業企画協力員会議（第 2 回）
12 月 18 日	研修講師派遣：レファレンス協同データベースの利活用（主催：兵庫県立図書館）
令和 8 年	
1 月 26 日	研修講師派遣：レファレンス協同データベースの利活用（主催：玉村町立図書館）
3 月 2 日	第 21 回レファレンス協同データベース事業フォーラム「レファレンスサービスの今後—レファレンス協同データベースの 20 年—」
3 月 4 日	国立国会図書館長から参加館への御礼状を送付。企画協力員賞授与

(2) 事務局の活動（その他）

a. 参加館へのサポート

レファレンス協同データベース（以下「レファ協」という。）活用に関する情報、研修等イベントの案内、新規参加館の紹介等を掲載した参加館向けメールマガジン『レファレンス協同データベース事業参加館通信』を月 1 回（第 473 号～484 号）発行した。また、令和 6 年度分の統計を修正する作業を行ったこと等の連絡事項を周知するため、必要に応じて参加館通信号外を発行した。

参加館からのレファ協に関する問合せを受け付け、随時回答を行った。新たに参加館となった機関には、初期作業として最初のデータの登録を促した。また、レファ協への参加後に初めて一般公開されたデータに対しては、事務局からのコメント付与、参加館通信での紹介等を行った。

b. 広報活動

レファ協公式 X で登録データやイベント情報等を発信した。令和 7 年度の総ポスト数は 2,198 件、1 日当たり平均ポスト数は約 9 件、令和 8 年 3 月末時点のフォロワー数は 73,734 アカウントである。前年度末のフォロワー数（71,366 アカウント）からの伸び率は約 3%となっている。

c. システム改修

次の改修を行った。

- 視認性向上のため、レファレンス事例検索結果一覧画面の「質問」「回答」に表示される文字数を 40 文字から 80 文字に増やした。
- 視認性向上のため、トップページの「新着データ」に表示される文字数を 30 文字から 100 文字に増やした。また、ログインした際のトップページの「自館データ」「新着未解決事例」に表示される文字数も 30 文字から 100 文字に増やした。
- 参加館プロフィールのデータ詳細画面での「データ一覧」のリンクについて、「データ一覧を見る」のボタンとし、リンクの所在を分かりやすくした。
- セキュリティ向上のため、パスワードポリシーを変更した。

(3) 企画協力員¹⁾による活動

a. レファ協事業企画協力員（令和 8 年 3 月末時点。敬称略、五十音順）

井上 美奈子	東京都江戸東京博物館都市歴史研究室
小熊 ますみ	埼玉県立久喜図書館
田子 環	神奈川県立厚木清南高等学校司書
谷本 達哉	羽衣国際大学共通教育開発センター准教授
中村 由紀子	伊万里市民図書館
廣田 桂	国立大学法人熊本大学教育研究支援部図書館課

なお、長年企画協力員を務められた小田光宏氏（青山学院大学コミュニティ人間科学部教授）が令和 7 年 12 月 2 日に逝去した。小田氏には、平成 14 年度に開始したレファ協の実験事業段階から学識経験者として御指導・御助言を賜り、その後も平成 18 年 7 月から企画協力員として 10 期 19 年 5 か月にわたってレファ協事業の普及・発展に御尽力いただいた。謹んで哀悼の意を表するとともに、これまでの御貢献に感謝を申し上げる。

b. 令和 7 年度の主な活動

レファ協担当者研修会やフォーラム等の企画について御助言をいただいたほか、担当者研修会の講師やフォーラムの登壇者としてイベント運営に御協力いただいた。

<研修等での紹介>

井上 美奈子

令和 7 年 7 月 10 日 2025 年度全国研究集会 第 3 分科会「レファレンス記録、どうしてますか？—記録方法、共有、そして活用」		開催形態：対面及びオンライン
主催	専門図書館協議会	
内容	渋沢栄一記念財団情報資源センター、海洋研究開発機構図書館、東京都江戸東京博物館図書室の事例紹介を通じ、記録媒体や記録方法、現場の実例と模索を共有しながら、	

¹⁾ レファレンス協同データベース 企画協力員について <<https://crd.ndl.go.jp/about/advisor/index.html>>

	現状と課題を考える内容として分科会を行った。レファレンス事例を公開する方法の一つとしてレファ協を取り上げた。
--	--

<刊行物等への掲載>

- 井上美奈子「博物館図書室レファレンス事例の記録・共有・活用：レファレンス協同データベースを利用した情報発信：第3分科会(特集 全国研究集会)」『専門図書館』323号, 2025.11, pp.54-58.

(4) 参加館²による活動

<研修等での紹介>（館名の五十音順（複数の活動を実施している館の場合は、その中で開催日順））

石川県立図書館

令和7年9月26日 令和7年度第3回図書館実務講習会 及び令和7年度北陸地区公共図書館職員研修会		開催形態：対面及びオンライン	
主催	石川県図書館協会・北陸地区県立図書館長会	参加人数	対面 27名、講義のみ配信 23名
内容	講義：「福井県立図書館におけるレファレンスサービスの試み」 講師：福井県立図書館 企画調整グループ 主任 宮川陽子氏 福井県立図書館編著『100万回死んだねこ』の出版をめぐる出来事に触れながら、この本に込めたレファレンスサービスへの思いについて説明した。レファ協の事例の紹介やレファ協への参加の呼び掛けも行った。		

板橋区立高島平図書館（東京都）

令和8年2月2日 国立国会図書館遠隔研修「レファレンス協同データベースの利活用」		開催形態：動画視聴	
主催	板橋区立高島平図書館	参加人数	24名
内容	スタッフ向けの内部研修として、国立国会図書館が公開している遠隔研修動画「レファレンス協同データベースの利活用」の視聴と説明を行った。		

伊丹市立図書館 本館「ことば蔵」（兵庫県）

令和7年5月14日 2025年度第1回学校司書研修会		開催形態：対面	
主催	伊丹市教育委員会事務局学校教育部学校教育課	参加人数	25名
内容	図書館を使った調べる学習コンクール関連講座「人気の漫画作品を読書や調べ学習に活用しよう」において、人気の漫画作品（『税金で買った本』など図書館が舞台の漫画、『SPY×FAMILY』、『【推しの子】』といった図書館が登場するシーンのある漫画）を題材に読書や調べ学習で活用できる本を紹介した。その中で、レファ協で公開されている「学校図書館が舞台の絵本」リストを配布した。		

² レファレンス協同データベース 参加館一覧 <https://crd.ndl.go.jp/reference/search/create?page=library_list>

令和7年6月17日 2025年度第2回小・中・特別支援学校図書館教育担当者会		開催形態：書面	
主催	伊丹市教育委員会事務局学校教育部学校教育課	参加人数	26名
内容	「令和7年5月14日 2025年度第1回学校司書研修会」と同一のプログラムを実施した。		
令和7年7月19日～8月24日 2025年度初任者研修		開催形態：書面	
主催	兵庫県教育委員会	参加人数	18名
内容	以下の2点の資料を配布した。 ・「図書館での資料の探し方・調べ方」講座レジュメ（2020年度配布分と同内容） ・「人気の漫画作品を読書や調べ学習に活用しよう」		
令和7年9月3日 2025年度第4回学校司書研修会		開催形態：対面	
主催	伊丹市教育委員会事務局学校教育部学校教育課	参加人数	25名
内容	新刊紹介において、『まっけたんだよヒカル』（つちだよしはる/絵と文 幻冬舎）に関連付け、レファ協調べ方マニュアルで公開されているブックリスト「養子・養親を描いた絵本」も紹介した。		

愛媛県立図書館

令和7年6月4日 「図書館業務のあらまし」研修会		開催形態：オンライン	
主催	愛媛県図書館協会	参加人数	20名
内容	初任者対象の研修を開催し、「国立国会図書館の役立つサービス」の中でレファ協を紹介した。		

沖縄県立図書館

令和7年9月24日 基礎から学ぶレファレンス演習		開催形態：対面及びオンデマンド配信	
主催	沖縄県立図書館	参加人数	29名
内容	第一部の「レファレンスサービスをもっと身近に！ーレファレンスサービス入門ー」では、講師を招いてレファレンスサービスの意義の説明やレファレンスインタビューの演習を行った。第二部の「レファレンス協同データベースへ調査結果をアップロードしてみよう！」等では沖縄県立図書館の職員が自館のレファレンス事例等を共有するとともに、レファ協へ調査結果をアップロードする方法について解説した。具体的には、「公開レベルの違い」「公開レベルを上げる場合の注意点（一般公開するときは再調査を奨励）」「自館のレファレンスデータベースとしての利用の推奨」といった説明を行った。		

鹿児島県立図書館

令和7年5月16日 図書館「総合」講座		開催形態：対面	
主催	鹿児島県立図書館	参加人数	40名
内容	鹿児島県内の公立図書館職員（主として初任者）を対象とした「レファレンスサービ		

	スの基本」の講義において、レファ協の概要と参加館の数等について説明した。
--	--------------------------------------

加西市立図書館（兵庫県）

令和 8 年 2 月 27 日 レファレンス協同データベース研修会		開催形態：対面	
主催	加西市立図書館	参加人数	18 名
内容	職員を対象に、レファ協の概要・操作・データ作成の研修を行った。その他、レファレンスプロセスやインタビュー、インターネットで使えるレファレンスツールを紹介した。		

鹿島市民図書館（佐賀県）

令和 7 年 9 月 2 日（火） 図書館実習生へのレファレンス演習		開催形態：対面	
主催	鹿島市民図書館	参加人数	1 名
内容	レファレンスについての基本的な説明、自館でのレファレンス受付から記録までの説明、過去に自館で受けたレファレンスからの演習問題とその解説までをレファレンス演習として実施した。演習問題について解説する際、レファ協の事例登録画面を見せて説明した。		

神奈川県学校図書館員研究会

令和 7 年 4 月 7 日 令和 7 年度新規採用学校司書研修 第 1 回		開催形態：対面	
主催	神奈川県教育局総務室	参加人数	13 名
内容	講義：「学校図書館とは何か」等 新着任者に LibraryNAVI「レファ協をさらにつかおう」を配付し、レファ協の活用をよびかけた。		
令和 7 年 5 月 14 日 令和 7 年度新規採用学校司書研修 第 2 回		開催形態：対面	
主催	神奈川県教育局総務室	参加人数	13 名
内容	講義：「整理業務・コンピュータによる蔵書管理」等 講義「整理業務・コンピュータによる蔵書管理」の中で、レファレンスに役立つサイトの一つとしてレファ協を紹介した。		
令和 7 年 5 月 22 日 学校司書等実務研修春期全体研究会		開催形態：対面	
主催	神奈川県教育局総務室	参加人数	185 名(会員数)
内容	神奈川県学校図書館員研究会における組織でレファレンス事例の収集と活用についての研究を行っている委員会である「レファレンス委員会」の活動報告の中で、レファ協に関して報告・説明した。 ・前年度「自館のみ参照」レベルで登録された事例を「一般公開」レベルに変更することを報告した。 ・全参加者に基本操作簡易マニュアルなどのレファ協に関する資料を配付した。		
令和 7 年 6 月 24 日 令和 7 年度新規採用学校司書研修 第 4 回		開催形態：対面	
主催	神奈川県教育局総務室	参加人数	13 名
内容	講義：「カウンター業務」等		

	講義「カウンター業務」の中でレファ協を紹介した。		
令和 7 年 12 月 15 日	学校司書等実務研修冬期全体研究会	開催形態：対面	
主催	神奈川県教育局総務室	参加人数	158 名
内容	神奈川県学校図書館員研究会における組織でレファレンス事例の収集と活用についての研究を行っている委員会である「レファレンス委員会」から活動内容を報告した。また、令和 6 年 11 月 1 日から令和 7 年 11 月 30 日までに「自館のみ参照」で登録された事例の一覧を作成し、これらの事例を令和 8 年 5 月の春期全体研究会以降に「一般公開」に変更することを提案した。		

川崎市立中原図書館（神奈川県）

令和 7 年 7 月 1 日（火）	令和 7 年度 レファレンス基礎研修	開催形態：対面	
主催	川崎市立中原図書館	参加人数	11 名
内容	レファレンス課題の回答解説の中で、用例の一つとしてレファ協を紹介した。		

京都府立京都学・歴彩館

令和 7 年 12 月 10 日	令和 7 年度 図書館・読書施設等職員レファレンス研修（中級）	開催形態：対面	
主催	京都府立京都学・歴彩館、京都府立図書館	参加人数	28 名
内容	京都府内の公共図書館及び読書施設に勤務する職員を対象に、レファレンスに関する実習・解説を行った。その際、参加者に課した課題は、京都学・歴彩館のレファ協登録事例を基に作成した。		

県立長野図書館

令和 7 年度上半期	館内職員研修	開催形態：対面	
主催	—	参加人数	17 名
内容	職員のスキルアップを目的とし、レファ協の自館登録を一般公開登録へ修正することで、読む人に分かりやすい記述を意識した研修を行った。		
令和 7 年 7 月	公共図書館新任職員研修レファレンス実習	開催形態：対面	
主催	県立長野図書館	参加人数	71 名
内容	初任者を対象に、レファ協の存在を認識し、レファレンスを記録することの意義を利用者として体験する研修を行った。		

国立国会図書館

令和 7 年 4 月	利用者サービス部門新規配属職員研修	開催形態：オンライン	
主催	国立国会図書館利用者サービス部	参加人数	44 名
内容	国立国会図書館の利用者サービス部門に新規に配属された職員を対象とした館内研修の中で、レファ協について説明した。		

高山市図書館（岐阜県）

令和 7 年 7 月 31 日 レファレンス協同データベースの使い方		開催形態：対面	
主催	高山市図書館	参加人数	33 名
内容	国立国会図書館が作成した研修動画「レファレンス協同データベースの利活用」「データ作成／システムの機能・活用について」を視聴した。また、レファレンス担当者が具体的な操作方法や運用について補足説明した。		

東京都江戸東京博物館図書室

令和 7 年 4 月 新任者図書室利用研修		開催形態：対面	
主催	東京都江戸東京博物館図書室	参加人数	15 名
内容	新任者（異動転入を含む）に向けて図書室の利用方法を説明する際にレファ協の概要を説明した。		

<刊行物等への掲載・展示等>（館名の五十音順）

いわき市立図書館（福島県）

- 「データベースで 13 年連続礼状」『福島民友』2025.4.25, いわき版
- 「いわき総合図書館に 13 年連続で礼状 国立国会図書館の調べものサポートで」2025.4.20. いわき民報ウェブサイト
<<https://iwaki-minpo.co.jp/news/2025/04/304475/>>
- 「利用者の「知りたい」に応え 国会図書館から礼状 13 年連続」『読売新聞』2025.9.5, 朝刊, 地域版（福島）

神奈川県学校図書館員研究会

- 神奈川県学校図書館員研究会ウェブサイトの「レファレンス事例ピックアップ」のコーナーを隔月で更新した。
<<https://www.pen-kanagawa.ed.jp/kastanet/>>

蒲郡市立図書館（愛知県）

- 「13 年連続で国会図書館長礼状 蒲郡市図書館 トリプル評価は 5 年 レファレンス協同データベース事業」『東愛知新聞』2025.4.17
- 「13 年連続国立国会図書館長から礼状 蒲郡市立図書館「トリプル評価」5 年連続で受賞」2025.4.23. 東日新聞ウェブサイト
<<https://www.tonichi.net/news/index.php?id=115186>>
- 「13 回目の御礼状届く 国会図書館から蒲郡図書館へ レファレンス活性化に貢献」『蒲郡新聞』2025.5.10, 朝刊

田原市図書館（愛知県）

- 「田原市図書館 レファレンス協同事業で表彰 国会図書館から企画協力員賞」2025.4.10. 東愛知新聞ウェブサイト
<<https://higashiaichi.jp/news/detail.php?id=24594>>

(5) サポーター³による活動

サポーターは登録データへのコメント付与や当事業の広報等の活動を行っている。令和8年3月末時点で66名が登録されている。(以下、敬称略)

<授業での紹介>

上野 芳重

- 甲南女子大学「情報サービス演習Ⅱ」令和7年度後期
前半では、レファ協の利用方法を紹介し、様々な検索実習で利用した。後半では、研修環境を用いて受講生各自が事例を作成することを最終課題とした。作成にはグループワークを取り入れ、メンバーの事例にコメントをつける等をした。
- 大谷大学「図書館サービス概論」令和7年度後期
「情報提供サービス」「図書館協力と連携」の授業回で、レファ協を紹介した。レファ協を検索して興味を持った事例を報告する課題を出し、課題を提出したうちの数名が内容について簡単に発表を行うようにした。また、報告された事例を内容や館種ごとにまとめ、解説した。

小曾川 真貴

- 中京大学「情報サービス演習1・2」令和7年度前期・後期
1ではレファ協研修環境で「調べ方マニュアル」を作成、登録することを最終課題とした。2ではレファ協研修環境で「レファレンス事例」を作成、登録することを最終課題とした。
- 愛知淑徳大学「情報サービス特論」令和7年度後期
レファ協研修環境で「レファレンス事例」を作成、登録することを最終課題とした。

徳田 恵里

- 大阪芸術大学「図書館情報技術論」
レファレンス事例の蓄積やパスファインダーの電子化など、“図書館業務とICT”の文脈でレファ協を紹介した。
- 大阪芸術大学「図書館サービス論Ⅱ」「情報サービス演習Ⅰ」
レファレンスの調査プロセスを考えるための題材として、レファ協登録事例を取り上げて解説した。
- 近畿大学「情報サービス演習Ⅰ・Ⅱ（司書課程）」
Ⅰではレファ協を紹介し、Ⅱでは受講者全員がレファ協研修環境でレファレンス事例を一つ完成させ、回答・回答プロセス・自身の考察をプレゼンすることを最終課題

³ レファレンス協同データベース サポーターについて <<https://crd.ndl.go.jp/about/supporter/index.html>>

とした。

豊田 恭子

- 東京農業大学「情報サービス論（司書課程）」令和7年度前期・後期
レファ協の機能と内容を紹介した。また、レファレンス回答記録の書き方についてガイダンスを行った。授業を通じて、学生にレファレンス課題（毎回5問程度）をフォーマットに合わせて提出させ、随時に書き方の良い点・問題点をレビューした。

2. 統計⁴

(1) 参加館数（令和 8 年 3 月末現在）

館種	令和 5 年度 末	令和 6 年度 末	令和 7 年度 合計	令和 7 年度 増	令和 7 年度 減
公共図書館	550	561	570	10	1
都道府県	53	53	53	0	0
政令指定都市	25	25	25	0	0
市町村	472	483	492	10	1
大学図書館	209	212	214	3	1
国立大学	51	51	51	0	0
公立大学	22	22	22	0	0
私立大学	135	138	140	3	1
高等専門学校	1	1	1	0	0
専門図書館	70	71	72	1	0
学校図書館	73	75	76	1	0
アーカイブズ※	11	12	12	0	0
国立国会図書館※	12	12	12	0	0
合計	925	943	956	15	2

※ 「アーカイブズ」は、平成 27 年 7 月に館種区分「その他」から変更。

※ 国立国会図書館には支部図書館を含む。

<令和 7 年度新規参加館>

（参加承認順 ※を付した館は、組織再編や参加単位の変更による新規参加。）

公共図書館

春日井市図書館、東大阪市立図書館*、宜野湾市民図書館、加西市立図書館、日光市立図書館、京丹波町図書館、彦根市立図書館、小田原市立中央図書館、嘉麻市立図書館、稚内市立図書館

大学図書館

國學院大學栃木学園図書館、駒澤大学図書館、湘南工科大学附属図書館

専門図書館

滋賀県立琵琶湖博物館

学校図書館

宮城県白石工業高等学校図書館

⁴ レファレンス協同データベース 事業報告・統計 <<https://crd.ndl.go.jp/about/statistics/index.html>>

(2) データ登録件数（令和 8 年 3 月末現在）

令和 7 年度末のデータ登録件数（総登録件数）は対前年度比で約 104%となった。年度ごとの新規データ登録数は前年度より減少した。

a. 館種別・公開レベル別データ登録件数

	公共 図書館	大学 図書館	専門 図書館	学校 図書館	アーカ イブズ	国立国会 図書館	合計
レファレンス事例	239,022	30,796	26,146	7,103	3,147	27,768	333,982
一般公開	121,999	13,887	7,842	3,454	905	26,798	174,885
参加館公開	11,571	3,060	500	188	268	26	15,613
自館参照	105,452	13,849	17,804	3,461	1,974	944	143,484
調べ方マニュアル	9,989	777	254	1,004	35	1,869	13,928
一般公開	2,783	566	178	748	6	1,742	6,023
参加館公開	5,950	38	2	10	2	3	6,005
自館のみ参照	1,256	173	74	246	27	124	1,900
特別コレクション	476	142	690	16	5	719	2,048
一般公開	333	79	610	13	0	706	1,741
参加館公開	69	7	0	0	4	2	82
自館のみ参照	74	56	80	3	1	11	225
参加館プロフィール	570	214	72	76	12	12	956
一般公開	570	214	72	76	12	12	956
参加館公開	0	0	0	0	0	0	0
自館のみ参照	0	0	0	0	0	0	0
合 計	250,057	31,929	27,162	8,199	3,199	30,368	350,914
一般公開	125,685	14,746	8,702	4,291	923	29,258	183,605
参加館公開	17,590	3,105	502	198	274	31	21,700
自館のみ参照	106,782	14,078	17,958	3,710	2,002	1,079	145,609

b. 年度ごとのデータ登録件数

	レファレンス 事例	調べ方 マニュアル	特別 コレクション	参加館 プロフィール	合計	総登録件数
平成 16 年度	13,620	167	158	283	14,228	14,228
平成 17 年度	6,557	190	73	107	6,927	21,155
平成 18 年度	4,087	183	5	52	4,327	25,482
平成 19 年度	4,841	197	21	10	5,069	30,551
平成 20 年度	5,682	5,928	13	27	11,650	42,201
平成 21 年度	8,759	223	10	32	9,024	51,225
平成 22 年度	13,646	307	28	29	14,010	65,235
平成 23 年度	17,956	543	54	20	18,573	83,808
平成 24 年度	23,079	361	124	23	23,587	107,395
平成 25 年度	20,830	688	△84	34	21,468	128,863

平成 26 年度	15,937	331	14	39	16,321	145,184
平成 27 年度	19,133	1,184	43	41	20,401	165,585
平成 28 年度	21,845	△16	20	44	21,893	187,478
平成 29 年度	18,084	320	48	28	18,480	205,958
平成 30 年度	18,436	195	19	36	18,686	224,644
令和元年度	23,715	397	350	23	24,485	249,129
令和 2 年度	15,315	208	277	27	15,827	264,956
令和 3 年度	17,734	145	327	26	18,232	283,188
令和 4 年度	16,213	813	63	26	17,115	300,303
令和 5 年度	15,619	1,082	429	18	17,148	317,451
令和 6 年度	18,530	223	34	18	18,805	336,256
令和 7 年度	14,364	259	22	13	14,658	350,914

※ △は当該年度にデータ登録件数が減少したことを示す。

(3) データへのアクセス件数（令和 8 年 3 月末現在）

	レファレンス 事例	調べ方 マニュアル	特別 コレクション	参加館 プロファイル	合計
平成 16 年度	23,822	1,739	1,571	2,384	29,516
平成 17 年度	135,633	6,698	2,701	6,729	151,761
平成 18 年度	372,923	27,322	2,342	11,852	414,439
平成 19 年度	934,783	49,622	3,899	18,416	1,006,720
平成 20 年度	1,506,785	65,456	5,929	22,252	1,600,422
平成 21 年度	2,423,254	99,378	5,654	27,358	2,555,644
平成 22 年度	6,407,952	209,039	30,826	69,851	6,717,668
平成 23 年度	6,944,084	280,387	41,394	81,423	7,347,288
平成 24 年度	7,674,019	252,109	49,852	247,650	8,223,630
平成 25 年度	16,530,577	480,292	57,026	206,606	17,274,501
平成 26 年度	23,224,613	585,411	53,553	221,590	24,085,167
平成 27 年度	37,004,963	869,274	71,193	292,745	38,238,175
平成 28 年度	40,015,309	1,037,071	76,624	304,633	41,433,637
平成 29 年度	51,904,330	821,923	68,706	301,160	53,096,119
平成 30 年度	35,467,747	610,716	48,423	326,648	36,453,534
令和元年度	42,634,969	710,865	80,514	701,272	44,127,620
令和 2 年度	50,338,506	823,358	109,303	708,052	51,979,219
令和 3 年度	55,064,078	731,223	152,777	544,063	56,492,141
令和 4 年度	36,744,879	488,245	71,001	298,734	37,602,859
令和 5 年度	37,341,505	879,935	111,047	333,180	38,665,667
令和 6 年度	66,395,503	620,504	137,795	265,702	67,419,504
令和 7 年度	50,001,032	960,975	191,337	329,188	51,482,532

※アクセス件数＝データの詳細表示画面の表示回数。レファ協の統計機能と令和 3 年度までの事業報告では「被参照数」と表記している。

※レファレンス事例データ、調べ方マニュアルデータ、特別コレクションデータ及び参加館プロファイルデータにつき、参加館用システム・一般公開用システム双方へのアクセス件数を合計した（一般公開用システムの統計は、本データベースの一般公開を開始した平成 17 年 12 月 15 日から採取している。）。

※システムへの負荷を軽減するため、平成 29 年 6 月末以降、クローラ等による大量アクセスを抑制する対応を随時行っており、アクセス遮断の対象となったクローラ等のアクセス件数は計上されていない。なお、令和 6 年 2 月 19 日のシステムリニューアル以降、アクセス遮断の対象となったクローラ等のアクセスもカウントするようになったため、統計算出用プログラムの改修を実施し、令和 6 年 4 月以降は、機械的アクセスと判断できるアクセスを可能な限り除外して算出した数値を計上している。

(4) YAU（Yearly Active Users）数の推移

YAU とは、公開レベルを問わず、1 年間で 1 件以上、レファ協にレファレンス事例、調べ方マニュアル又は特別コレクションを登録した参加館の総数である。参加館総数に占める YAU の割合は 30% 台で推移している。

	YAU	参加館総数	YAU 比率
平成 27 年度	250	697	35.9%
平成 28 年度	272	741	36.7%
平成 29 年度	287	769	37.3%
平成 30 年度	294	805	36.5%
令和元年度	300	828	36.2%
令和 2 年度	304	855	35.6%
令和 3 年度	329	881	37.3%
令和 4 年度	338	907	37.3%
令和 5 年度	325	925	35.1%
令和 6 年度	319	943	33.8%
令和 7 年度	317	956	33.1%

(5) 令和 7 年度御礼状

令和 7 年度は、国立国会図書館から多くのデータを登録している参加館や多くのアクセスを集めている参加館に対する御礼状を 72 の参加館に送付した。対象館はレファ協ウェブサイト内「令和 7 年度 国立国会図書館長からの御礼状送付＞対象館一覧⁵」を参照

(6) 令和 7 年度企画協力員賞

さまざまな観点からレファ協に貢献している参加館へ企画協力員賞を授与している。企画協力員で議論を行い、令和 7 年度は次の 6 館を選定した。

泉大津市立図書館（大阪府）

（選定理由）令和 7 年に積極的にレファレンス事例データを登録・公開した。

おおぶ文化交流の杜図書館（愛知県）

（選定理由）長年にわたりレファ協事業に参加し、特に近年継続的にレファレンス事例データを登録・公開している。

熊本県立熊本聾学校（熊本県）

（選定理由）職員数が少ない中で継続的・積極的にレファレンス事例データを登録・公開している。

⁵ レファレンス協同データベース 令和 7 年度 国立国会図書館長からの御礼状送付 対象館一覧
<<https://crd.ndl.go.jp/jp/library/thanks/r7.html#list>>

公益財団法人三康文化研究所附属三康図書館（東京都）

（選定理由）職員数が少ない中で令和 7 年に積極的にレファレンス事例データや調べ方マニュアルデータを登録し、自館のみ参照の段階にあるレファレンス事例データについては今後の一般公開が期待できる。

遠野市立図書館（岩手県）

（選定理由）長年にわたりレファ協事業に参加し、特に近年継続的にレファレンス事例データを登録・公開している。

浜松市立中央図書館（静岡県）

（選定理由）長年にわたりレファ協事業に参加し、特に令和 7 年に積極的にレファレンス事例データを登録・公開した。